

校舎を色鮮やかな花で プランター定植通して交流

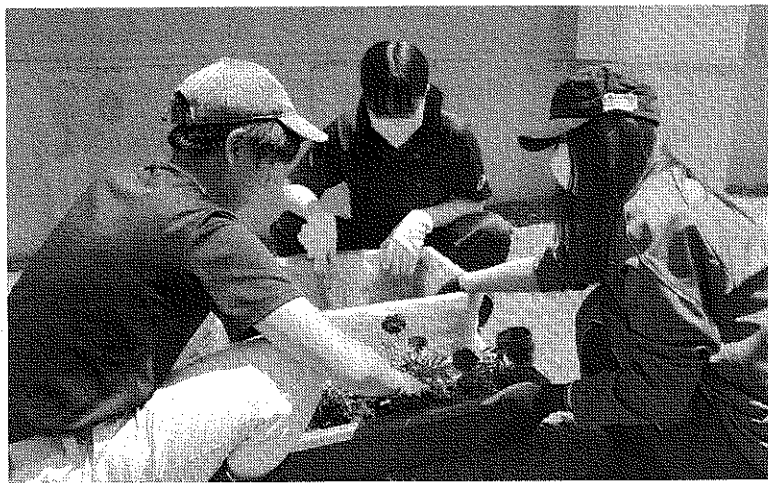
が、3日午前10時から美深高校でプランター定植作業を行い、花苗を植え込みながら交流を深めた。

両校では毎年、同学年同士によるさまざまな交流事業に取り組んでいる。

美深高校では例年、美深高等養護学校から花苗を購入し、プランターに定植。昨年までは納入のみだったが、今年から両校の生徒と一緒に定植作業を行うことにした。

作業には、高等養護学校農業科3年生3人と、高校ボランティア局の2、3年生5人が参加。

花苗はマリーゴールド



互いに協力してプランターに花苗を定植した

ド（イエロー、ビー、ファイアボール）、ベゴニア（ピンク、セネタピンク）、ペチュニア（紫、ピンク）合わせて120株を用意。両校の生徒たちがグループとなり、互いに協力してプランターを作った。

高等養護学校の畑から運搬した土をプランターに入れ、色合いや間隔を考えながら、色鮮やかな花々の苗を植え込み、プランター20個を完成させた。

プランターは生徒玄関前の通路に置き、たくさん水をあげて作業が完了。校舎を花々で彩りながら、生徒や教職員たちの目を楽し

ませている。

農業科3年の成田由良さんは「初めて交流してコミュニケーションが取れました。とてもかわいらしいプランターができました」。

佐藤祐麻さんは「緊張しましたが、一緒に植える方を教えることができました。出来栄は100点です」。

ボランティア局長の高橋かれんさん（3年）は「とても楽しかったです。ポットから花を取り出す際、茎が折れないように気を付けました。センス良くプランターができたと思います」と語った。

（中村）



作業に当たった農業科とボランティア局の生徒たち